

書塾の仲間たち

第 226 回

つづみばし

鼓星書道教室（埼玉県富士見市）



●書塾からひとこと●

埼玉県富士見市の東武東上線みずほ台駅近くにある教室で、幼児から大人の方までが通っています。多くても一度に十人までの少人数でお稽古をしています。

子どもたちは毎月届く競書雑誌が楽しみで、「こんにちは！ 先生、本届いた？」とすごい勢いで教室に入ってきます。作品が掲載された子、段・級が上がった子は喜び、上がらなかつた子は少しショーンとする。そして次回こそはと奮起する子どもたちが多くいます。

お稽古中は、ただ書くだけでなく、自分の作品を壁に貼ってみて、どう直したらいいか考え、子ども同士で作品の批評もします。書く力をつけるだけでなく、見る力も養っていくたい。それそれが高め合う姿を見ると、「書」って素敵だなと思わせてくれます。

教室では、子どもたちがお稽古が終わった後でも教室にある書道の本を見たり、字書で自分の名前の漢字の篆書じんしょを調べたり、古典を真似して書いたりと、書写だけでなく書道にも触れることができる環境になっています。学校での書写教育も踏まえ、そこから一步踏み出した指導を常に心がけています。大人も子どももずっと「書が好き」であってほしい。生徒さんたちと一緒にさらに深い学びができる教室を作っていきたいと思います。

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。
鼓星書道教室 芹澤 翔華

もつと上手く書けるようになりたい

わたしは、小学三年生の十一月から、毎週水曜日に習字を習っています。なぜ習い始めたのかというと、わたしが、「字がもつと上手くなりたい」とお母さんに話したら、「習字を習つたらいいんじゃない。」と、すすめもらつたからです。丁度いいタイミングで、わたしが卒園したようち園に、新しく習字教室ができたので、そこに通い始めました。

習い始めてから一番うれしかったことは、三年生の時に、書き初め作品が、市のてんらん会に選ばれたことです。今年は、コロナでホームページに写真がのるだけだったので、次もがんばって、選ばれたいです。

二番目にうれしかったことは、「はね」ができるようになつたことです。もともと、字が上手と言われていましたが、えん筆で書くのと筆で書くのは全然ちがい、上手に書けませんでした。しかも、「はね」は形がちがうので、よけいにむずかしかったです。でも、先生が書いてくれた「はね」のお手本をなぞつたら、きれいに書くことができました。

わたしは、自分の字が月刊「書写書道」のお手本のような「くせのない」字です。なぜかというと、上手でも「くせがある」字より、「くせがない」字を書ける方がかっこいいと思うからです。その字を目指して、これからもがんばります。



東京都八王子市立散田小学校四年 佐藤 陽葵



私と書写書道 第226回

いろいろな書体に挑戦していきたい

角川ドワンゴ学園N高等学校一年 西牟田彩音



私が初めて書道教室を訪れたのは、小学二年生のときです。「鉛筆の持ち方を直して綺麗な字を書きたい」と思い、自分からやりたいと母に頼んで連れてってもらいました。

偶然にも同じ日に同じ年の子も入りました。彼女は初めから字が綺麗で昇級も早く、私はいつも悔しく、うらやましく思っていました。そして彼女は私の目標になりました。

毎月順調に昇級するときもあれば、何カ月も停滞してしまうときもあります。自信を無くしていると、先生から「あなたは素直で良い字を書くから大丈夫。自信を持って」と励ましてもらつたので、長く続けることができています。

中学生になつて行書を練習し始めてからは、硬筆も毛筆も急に上達してになります。なので、本が配られる毎月第一水曜日がとても楽しみで、本をもらつたら、「今月はのつているかな?」と、わくわくしながらページをめくります。毛筆の作品はなかなかのらないので、毛筆を上手に書けるようにながんばっています。

わたしが目指す字は、月刊「書写書道」のお手本のような「くせのない」字です。なぜかというと、上手でも「くせがある」字より、「くせがない」字を書ける方がかっこいいと思うからです。その字を目指して、これからもがんばります。

